挨拶する・祝う-1

## 挨拶する・祝う

らすらと出る。憎いほど落ちついて澱\*\*とみのない口す)。▼会釈する(腰を屈めて。小さく)。口上が割合すす)。▼会釈する(腰を屈めて。小さく)。口上が割合すこっと笑って。ほうと教われたように=檀)。別辞もそこっと笑って。ほうと教われたように=檀)。別辞もそ 生まれてはじめてお辞儀をするようにぎこちない=あいさつ【挨拶】▼挨拶(折り目正しい。通り一遍の。 を交わす程度の友達。近所一帯に挨拶をして回る。主 こそこに(玄関を出る。用件を切り出す=西木)。挨拶 くに挨拶もできないなんて情けない=森瑶。挨拶もそ 拶に伺候する。 二言二言挨拶の言葉を交わす=堀。 ろ きなり出る。奥泉。丁寧な挨拶で痛み入る。年頭の挨河野)。何しにきたんだと斬りつけるような挨拶がい

して歌いはじめる。開高。握手攻めにあう。▼差し出すどう酒の澄明な泡に沸きたって活力と握手し声に出どう酒の澄明な泡に沸きたって活力と握手し声に出きし伸べる。固い握手を交わす。別れしなに握手を求差し伸べる。固い握手を交わす。別れしなに握手を求 ばヘタなテキ屋の口上のような科白ネメールを吐く-久間。を説明する-阿刀田。来訪の口上を聞く。一歩間違シ (さり気なく右手を。しっかりやれよという風に手を 上だ=獅子。口上を読み上げるように料金のシステム 一歩間違え

いちれい【一礼】丁寧な重々しい一礼。 礼とともに客を迎える=笹沢。深々と陳謝の一礼をす 本堂に向かって。優美なしぐさで=高千穂)。 なく。深く。無言で。両手をついて。殊勝な面持ちで。 る。▼一礼する(恭しく。格式ばって。軽く。誰にとも にこやかな一 一礼して

をする(恭しく。端然と。深々と)。目礼を交わす。▼ をする(恭しく。端然と。深々と)。目礼を交わす。▼ 目礼する(笑顔で。軽く。微笑を浮かべて)。 屋蘇とそで正月を。赤飯を炊いて。結婚するカップル を。家族がさざやかに。春の祭典を心から。還暦を。 を。家族がさざやかに。春の祭典を心から。還暦を。 を、来寿を。本卦性、がえりを)。入れ代わり立ち代わ 祝儀を袱紗がくに包む。祝意を表す。盛大な祝賀行事。った年を。 延年を。 長寿を)。祝儀袋を懐から出す。祝の雰囲気に包まれる。▼寿応とく(愛の成就を。改ま を家じゅうでお祝いする=丹羽。お祝いのシャンパン喜びにあふれた祝いの席。娘が一人前になったこと を抜く。誕生日のお祝いをする。薬玉だすを割る。慶 り祝いに来る。祝いの(言葉を述べる。品を届ける)。

長ながと『女岡』。▼お辞儀をする(角張った。こくりと。べこべこと。びょこんと一つ。帽子に手をかけて。なびいたように草木が=芝木。相手が恐縮するくらい丁重な=高井。バッタのようにひっきりなしに『大庭。 世に両手をついて澤い=三島。弾かれたように『古史。 関に両手をついて澤い=三島。弾かれたように『大庭。 神妙に畳に手をつき』ねじめ)。 つんのめるようにお辞儀しながらたってくる=小林信。▼ぬかずく(神前に。拝殿に。薬前に)。▼頭を下げる(静かに。 弔問客に。 丁重に。 愛想よく。黙って軽く。小さく。べこりと。マイクの前で。 よく。黙って軽く。小さく。べこりと。マイクの前で。 よく。黙って軽く。小さく。べこりと。マイクの前で。 おじぎ【お辞儀】ぐぎぎっと音でもしそうな感じの =篠田。敷居際に手をついて=小松左)。 退する=倉橋。▼深々と頭を下げる(受話器の向こう て恭しく頭をさげる。遠藤。慇懃カルに頭を下げて辞 が頼にかぶさるほど=川端。「よ・ろ・し・く」というようようにして=向田。啄木鳥きっのように=川端。長い髪 焼香する人たちに機械的に=貫井。 ガクンと首を折る ールを繰り返す=梶尾。いよいよ固くなってお辞儀をるほどの丁寧なお辞儀-中島敦。お辞儀のキャッチボ ぎくしゃくとしたおじぎ=椎名誠。 途を)。▼祝福される(運命に。神から)。万歳の声が(上 福の光に包まれる。牧師の祝福を受ける。▼祝福す 前祝いの乾杯のグラスを重ねる。前祝いを兼ねる。 ▼除幕式(記念碑の。銅像の)。奉祝式典を開催する。 生還を祝す。祝電を打つ。祝杯をあげる。祝砲を放つ。 来賓のながながしい祝辞。年頭の祝辞を述べる。無事 な変にブツギレのしぐさで=椎名誠)。両手を前に重ね く万歳を唱える=なかにし。 両手を挙げて万歳する がる。 こだまする)。 万歳を三唱する。 誰からともな (奇跡の生還を。恋人たちを。出発を。勝利を。二人の前 頭が膝の所まで来 る

を)。謝辞を(述べる。読み上げる)。▼深謝いたします(お力添えを。ご厚情を)。礼状を書く。丁寧な礼状をつつ。しどろもどろに礼を言って話を切り上げる。貫力。、しどろもどろに礼を言って話を切り上げる。貫力。「本人を言う(慇懃がんに。お義理に。手厚い看護に丁寧に。大仰な言葉で。型通りの。口だけの。心からの厚い。胸の中で。深く腰を折って)。▼礼を述べる「無器用に。朴訥ヒロンに。厚く。くどくど。心底からの厚い。胸の中で。深く腰を折って)。▼礼を述べる出迎えの。何度も。畳に額をつけるように頭を下げて出迎えの。何度も。畳に額をつけるように頭を下げて出迎えの。何度も。畳に額をつけるように頭を下げて出迎えの。何度もといる。礼を言うには及 い。申しようもありません)。思わずお礼の言葉を洩。もらった)。お礼の(一席を設ける。言葉が見つからなおれい【お礼】▼お礼(世話になった。今までよくして ばぬ=福永。 る。 らし口笛を吹く気になる。佐野。 ありがとうを言う。▼贈る(お礼の品を。 (お礼の品を。感謝状一言お礼を申し上げ

が乱れる=白洲。不満が胸の中で両立している=丹羽)。すれ苦情を言う筋はない。感謝と(怨恨ぶんの間で心すれ苦情を言う筋はない。感謝と(怨恨ぶんの間で心かる)を情に近づく=倉橋。感謝こそ 迎えを)。 婚家の母に対する最大な**謝意**の表現<sup>4</sup>新田。 しないわけにはいかない。▼謝する(恩義を。ご清聴を。 に堪えない。先生の方に足を向けて寝られない。感謝 に必えない。先生の方に足を向けて寝られない。感謝 に激えない。光生の方に足を向けて寝られない。感謝感激 表する。常に感謝の念を忘れない。深い感謝の念が胸い=丹羽)。好意に感謝の他はない。心から感謝の意を 葉を口にする。気持ちが心の底から消えたことはなを捧げる。思いに満たされる。気持ちでいっぱい。言謝の(祈りを捧げる。辞を述べる。念が消えない。念持ちを(惜しまない。伝える。瞳にみなぎらせる)。感 神の深い愛に。行き届いた処置に。真面目な働きぶり 申し上げます。▼感謝する(日々の糧を。 実りの秋を。にあふれる。心からの感謝を捧げる。 衷心より感謝を 感謝に(あふれた表情。満ちた安らかな顔)。感謝の気

(グラスを。ジョッキを)。グラスを(高々と掲げる。 祝して乾杯する(結婚を。健康を)。▼掲げて乾杯する。 マの。何回も乾杯を重ねる。長老の発声で乾杯する。 で見がする。 で見がする。

のグループに別れてお行儀よくかたまる-久間。風儀行儀よくおさまる。腿。」を行儀よく閉じる。幾つか行儀よくおさまる。腿。」を行儀よく遊ぶ。席にく(靴が並ぶ。席に着く)。一列に行儀よく並ぶ。席になしいお行儀のいい坊ちゃんという名誉がいっおとなしいお行儀のいい坊ちゃんという名誉がいっ おとなしいお行儀のいい坊ちゃんという名誉がいっおとなしいお行儀のいい態度。 目の高さまで持ち上げて軽く目礼する=開高)。 がきちんとしている。

けいれい【敬礼】将軍のような威勢のい をとる。 兵隊のように挙手の礼をする-有島。 天皇陸っと-胡桃沢)。 制服の警官が挙手で迎える。 挙手の礼みたいにとびあがって-大庭。 踵カッを合わせてきちみたいにとびあがって-大庭。 踵カッを合わせてきち嶋。 お仕着せの敬礼をする。▼敬礼する(あやつり人形 をする一回 に頭を下げる。衷心から謝意を表するように最敬礼 (腰を折って。身体を二つに折って=萩原葉)。四十五度 下に謁見でもしたような**最敬礼**=連城。▼最敬礼する い敬礼=椎名

い。養家のしつけになじむ。礼儀作法のしつけに厳し親のしつけがなっていない。貴井。しつけにやかまししのけ、僕人厳格な武家のしつけ。しつけが行き届く。 しゅくがかい【祝賀会】市の有力者数百名を一堂に 我が子を)。 い。しつけの厳しい家庭。▼しつける(子供を。

へんれい【返礼】▼返礼(お見舞いの。香典の。葬儀の。 く。催す)。 嘉寿の祝宴を取り仕切る=重松。 (張る。催す)。 盛大な質宴を張る。祝宴を(張る。開 催す)。▼催す(お祝いの会を。祝典を)。祝いの宴を 集めた祝賀会=里見。祝賀会が花を開いたように賑や かになる=黒岩。祝賀会の席が乱れる。祝賀会を(開く。

> **みやげ【土産**] 花を土産にする。冥土の土産に聞かせ自己宣伝=三島。お返しを用意する。挙手の礼を返す。 る。 ぱいに土産物を抱える=篠田。菓子折りを(届ける。 く。土産物を(売る。買う)。戦利品のように両手い って挨拶に行く)。土産物屋が参道の両側にひしめいを手土産にする。手土産を(持参する。携える。持 年賀状の。法要の)。返礼が届く。返礼に名を借りた って訪ねる) お土産を買う。どっさりお土産を抱える。せんべ

く)。満遍なく名刺を配る。もらった名刺を壊れやすく)。満遍なく名刺を配る。もらった名刺を壊れやすと、皆の先ではじといる。名刺を(一枚抜き い宝物のようにそっと握りしめる=内館

をわきまえる。礼法に(かなう。外れる。反する)。古心得る。正しくする。あくまでも守る)。一応の礼儀と(重んじる。本がましい)。礼儀を(重んじる。ればだりながりませい。礼儀が身につれいぎ[礼儀]親しき仲にも礼儀あり。礼儀が身につれいぎ[礼儀]親しき仲にも礼儀あり。礼儀が身につ 身につける)。 正しい作法によって切腹する=舟橋。作法にかなったる)。作法が身につく。進退の作法が水際立って見事。 風で固く構える=石坂。エチケットを(守る。わきまえ チケットに従う。全身これエチケットの塊といった 礼節を(重んじる。守る)。衣食足りて礼節を知る。エの)。 礼式に(かなう。 反する)。 死者に対する礼節。 (食べ方。振る舞い)。マナー いホヒよりの礼を守って生きる=辺見。▼礼をとる(師弟 臣下の。臣従の)。▼礼式(宮中の。軍の。自衛隊 が良い。マナー 一応の礼儀 -を(学ぶ。

れいぎただしい【礼儀正しい】礼儀正しい(言葉遣い。 遣い。紳士の挙措)。折り目正しく挨拶する。 一きまえた男=藤沢。折り目正しい(暮らしぶり。言葉 う)。折り目高に身を持する=加賀。若いながら礼儀を 儀正しい青年=落合。 礼儀正しく(育てられる。 振る舞 紳士。平穏な家の雰囲気=大岡)。育ちのよさそうな礼

## 愛する・可愛がる

変わる。無償の愛に生きる。愛の(名に値しない。営変わる。無償の愛に生きる。愛の(名に値しない。営変わる。無償の愛に生きる。愛の(名に値しない。営変わる。無償の愛に生きる。愛を(永遠に存在させる。おない愛は苦しい」佐藤春。愛を(永遠に存在させる。おない愛は苦しい」佐藤春。愛を(永遠に存在させる。おない愛は苦しい」佐藤春。愛を(永遠に存在させる。語り合う男女が街を満たす)。あふれる愛を万物に及ぼす。自由に愛を貫く。ひたすら愛を待ち受ける。千度はず。自由に愛を貫く。ひたすら愛を待ち受ける。千度はず。自由に愛を貫く。ひたすら愛を待ち受ける。千度は、大きないとでは、大きないとでは、大きないとでは、大きない。 目覚める。 仁愛に篤い。仁愛の人。ひたむきな父性愛。母性愛に の遺愛の品。恩愛の情など微塵もない。純愛を貫く。万の言葉に勝る深い愛を告げられた思い三宮尾。亡父 っぽり包まれる。ついての空虚な言葉)。好意が愛にしただけで消えて行く-中村真)。愛に(あふれた目。す くひたす=大江。儚はかい夢のように微かな匂いを残る。沸る湯のように躰於っを指先までくまなく勢いよ た清姫のような自滅の=石川。夕陽の残光のように空 高く深い澄みきった=光瀬。 道成寺の安珍を焼き殺 洲。サディズムの要素を含んだ=中村真。高い空よりも しい=野間)。愛が(心に満ちる。破局に至る。芽生え な自己放棄の犠牲的なー瀬戸内。 永遠に変わらぬー白い【愛】▼愛(家庭的なあまりに家庭的なー川端。謙虚 母性愛を発揮する。友愛を育む。

あいこくしん【愛国心】▼愛国心(狭隘
がいうな。健全 な)。▼愛する(郷土を。 殉国の至情。 国を)。祖国を熱愛する。 愛郷 憂国の情。祖国愛に燃える。

> ムに陥る。 ナショナリズムが高揚する。排他的なナショナリズ

は、「大学」にあれる。 できない。 (人を無力のとした)。 まる。 マ愛する 真心をこめて。 全身全霊をあげて。 する。 マ愛する 真心をこめて。 全身全霊をあげて。 する。 マ愛する 真心をごめて。 全身全霊をあげて。 溺れるように夫を引端。 待たせた時間を埋めようとするかのように激しく落合。。 文を愛する技巧に長じている。 市橋。 愛さずにはいられない。 今でもなお愛している。 古郷の愛すべき風景。 マ愛される(世代を超えて。 広く一般読者に。 体がバラバラになるほど。 単村)。 人から愛されるということは生ぬるい日向水にひたっているようなもの。 福水。 一人の女性を愛しいる。 あの世までもと誓った男。 来世を契る。 最愛の(人をしくす。 夫人に死に別れる。 愛情の念に堪えない。 (人をしくす。 夫人に死に別れる。 要しいるようなもの。 「本ない。」 (本を受し、 しい。 「本ない。」 (本を受し、 しい。 「ない。」 (本をしているようなもの。 「本ない。」 (本を受し、 しい。 「ない。」 (本を受し、 しい。 「ない。」 (本を受し、 しい。) 「ない。」 (本をしい。) 「ない。」 (本ない。) 「ない。」 (ない。) (ないん。) (ない。) (ない。) (ない。) (ない。) (ない。) (ない。) (ない。) (ない。) (ない。) (な あいじょう【愛情】▼愛情(微温的な老人臭い。抑え ようとして抑えられぬこんこんと常に湧き出る自然 ようとして抑えられぬこんこんと常に湧き出る自然 な=中島敦。譬たとえようもなく清冽地いな純粋な=中 島敦。遠ざかれば忘れてしまうに違いない稀薄な=中 島敦。遠ざかれば忘れてしまうに違いない稀薄な=中 島敦。さかれば忘れてしまうに違いない稀薄な=中 あいじょう【愛情】▼愛情(微温的な老人臭い。 お互いを愛する。好いた者同士。相思相愛の仲。わり(人と人とが。互いに。深く。せつなく思うほどに=堀)。 い合う。不器用に愛情を表現する。心ひそかに愛情を情を(重荷に感じる。人並みに持つ)。母親の愛情を奪 しの悪たれ口)。愛情は歳月をかけて育てるもの。愛る-瀬戸内。愛情の(雨を降り注ぐ。深さを知る。裏返 金で換算した方がわかりやすいような打算がからま うにきらきら美しい=円地)。声に愛情がこもってい る(ある種の美を。 体の一部を。 人形を)。▼愛し合う しの悪たれ口)。愛情は歳月をかけて育てるもの。 る。靄。ゃのようにこまかく愛情で囲む=大佛。愛情に

> を。美少年ぶりを。咲き誇った薔薇ばらを) ない仲になる。▼愛。でる(花鳥風月を。 四方の景色

あいよく【愛欲】激しい愛欲が渦巻く。愛欲に、身を すくわれ溺れきる=瀬戸内。 一見献身的で犠牲的に見 の(虜ごっになる。念を断ち切る)。女の深情けに足をを越える『石坂。抜けられない愛欲の地獄『石川。愛執 人間の愛欲の姿。とがりやすい愛欲の感情の幾山河慾の唐草模様を縮る」、「『『十二 **慾の唐草模様を織るように感情がからみあう=** る=鈴木光)。愛欲の(生活を続ける。炎が燃える)。愛 焦がす。満ちたどろどろした男女の関係に身を沈め

で、マベック アベックに あてられる。アベックに あてられる。アベックに かてられる。アベックに かで、変力にいる何組かのカップルに食い入るように 眼を据えつける。阿部・二人(相合傘の。新婚ほやほ やの)。▼カップル(幸せそうな。好一対の。似合いの。 若い)。結婚するカップルを祝う。 およやかす【甘やかす】▼甘やかす(自分で自分を。 安っぽい哀れみで)。甘やかすとつけ上がる。甘やか されて育つ。弱い者に対する甘やかし。▼育つ(過保護 に。甘やかされ放題に」。娘を甘やかし、▼育つ(過保護 に。甘やかされなで)。日のまる。日りからちやほやされて新慢きは、「になる・干刈。 男からちやほやされて新慢され、「になる・干刈。 男からちやほやされて新慢きは、「になる・干刈。 男からちゃほや される。

終わる。一人相撲をとる恋。片恋が(成就する。実る)。かたおもい[片思い] 片思いが実る。初恋が片思いにられる。 愛しさに人目も忘れて抱きしめる-瀬戸内。 はさが胸いっぱいに広がる。愛しさで胸が締めつけ かわいがる【可愛がる】▼可愛がる(我が子同然に。 のように愛しい。音本。愛しい我が子。心から愛しいといとしい【愛しい】魂の記憶に刻まれた遠いあこがれ 思う。胸もとにつきあげてくるような愛しさ=水上。 愛

女。人の恋路の邪魔をする。恋めいた気持ちを男に抱 女。人の恋路の邪魔をする。恋めいた気持ちを男に抱 を心くるでなな種純な"円地"。恋心が芽生える。新たな 恋心をそそる。平恋心を抱く(ほのかな。 淡い)。 -火坂。夏の太陽のような烈は『しい恋』菊池。恋多さ(一世一代の。命懸げで)。身を焦がすような激しい恋買く。 昔の恋を胸に秘めて生きる=海堂。▼恋をする の中に恋を育てる。日一日と恋を深める。一筋の恋をの今に身を焦がす。阿刀田。 恋は思案の外。 心めく恋の炎に身を焦がす。阿刀田。 恋は思案の外。 心のうちに小さな恋の卵が湧きそめる。伊藤左。 めくる言葉。 控えめな恋の告白。 みずみずしい恋の感情。 胸 闇路に踏み迷う。箱の蓋を閉じる=瀬戸内)。甘 

れ出しにして『高井。実の子のように』立原。実の孫の丸出しにして『高井。実の子のように』立原。実の孫のように書稿だ。なめまわすがごとく』池波。家族同様にかわいがっている犬』阿刀田。日頃可愛がってもらっている教授。▼可愛がられる(上役に。先生に)。可愛がりずぎるきらいがある。▼可愛がりよう(大変な。旧に倍する。常軌を逸した。一通りではない。目に入れてもする。常軌を逸した。一通りではない。目に入れてもする。常軌を逸した。一通りではない。目に入れてもする。常軌を逸した。一通りではない。目に入れてもする。常軌を逸した。一通りではない。目に入れてもする。常軌を逸した。、祖りではない。単中の珠を実の孫の状があり、実のないまといとおしむ(命を。子を。追憶をで表っ、宝石を)。いとおしげに(肩を抱く。壺っぽをなでる。 実石を、いとおしむ(命を・子を・追憶をで表す。 実石を、いとおしむ(命を・子を・追憶をで表す。 実石を、いとおしげに(肩を抱く、壺っぽをなでる)。 涙ぐむような愛おしむが胸に迫る。 有書、 溺愛でる。 涙ぐむような愛おしむが胸に迫る。 有書、 湯愛でる。 涙ぐむような愛おしむが胸に迫る。 するとは、 に、勝つ。負ける)。恋の鞘当

・でをする。恋の達引

・のなど、ないなど、ないない。 恋の鞘当なゃてをする。

ているで、 こいしい「恋しい」では、 では、都の空が、死ぬほど)。▼恋しいにもべて気が が、都の空が、死ぬほど)。▼恋しくにとしくて気が が、都の空が、死ぬほど)。▼恋しくいとしくて気が ない、もの面影が目の が、人の面影が目の 募る。 巻く=山手。 恋しさに身をじらす。 都恋しさに堪えか つかしさ恋しさがむらむらっと胸いっぱいにうずを 太陽の光を。 怨みや恋しさが焼くように胸に迫る=菊池。な 暖炉を。母親の乳を。母を)。恋しさが

な瀬戸内。呪われた悪魔的な=菊池。身を灼\*きつくない[変] ▼恋(老いらくの。語り草になるほど華やかに近い愛し方。▼溺愛する(芸術を。動物を。娘を)。

池)。恋が(愛に昇華する。成就する。芽生える)。短すような=三島。ロマンチックな人間離れをした=菊

答すると)こ、" LLF' 恋で終わる。所詮恋というのははかないものだ、雪恋で終わる。所詮恋というのははかないものだ、雪恋で終わる。 芽生える)。 短

な恋情が芽生える。恋情に(襲われる。火をつける)。 る(恋に。 焦がれに。 酒に。空に。 ひたすら)。 星のかる(恋に。 焦がれに。 酒に。空に。 ひたすら)。 早焦がれを。 姫を)。 ▼焦がれる。 人妻に)。 ▼焦がれる。 人

5

愛する・可愛がる-2

う。実をもぎとる。罠ヵなにはまる。手習いにふける。を咲かせる。火が燃える。炎に灼かれる。道に踏み惑しれない=阿刀田。恋の(歌を歌う。とりこになる。花

がいいがあるように恋にも酔いの名残があるのかもな恋に身も心もひたりきる=石川。 アルコールに宿酔 ど恋にとって豊かな糧はない=大岡。 夢うつつのよう 同情が恋に変わる。熱烈な恋に落ちる。不断の関心ほ抜かす)。 新しい恋に立ち向かう。 心が恋に満ちる。 (臆病になる。心を奪われる。目がくらむ。うつつをの溶けるようにいずれは溶けてしまう=福永。 恋に

> 恋慕する(女性に。 三島。恋慕の情がやみがたい。恋慕の情を寄せる。▼恋情をいだく。悲しさと恋慕の慕った複雑な気持ち=

隔てしないで。妹をお人形のように=内田春。親馬鹿を なめるように。目の中に入れても痛くないほど。分け

こいする【恋する】▼恋する(芝居の人物に。 初みそめる(初対面で。 ッドが矢を射る。 恋する男の直観でピンとくる=三浦し。キュー ハートに矢が刺さる。 ほの字。▼見 命懸け

さ こいでと「恋人」▼恋人(郷里に残した。二年越しにつき こいでと「恋人」▼恋人(郷里に残した。二年越しにつき き合っている。行く末を契った。恋人に(入れこむ。を楽しむ。いちゃいちゃする。一緒に食事をする。腕を楽しむ。恋人の(様枕で眠る。変心をなじる。浮気に神経地)。恋人の(様枕で眠る。変心をなじる。浮気に神経を尖らせる。訪れのごとくイソイソと階段を降りる一坂口。真節を信じて疑わないほど能天気ではない=松浦)。素敵な恋人を見つける。他人の恋人を横取りする。別れた恋人を恋い続ける。甲春の句いを身につけたような恋人たち。原田康。恋人たちを祝福する。悲したような恋人たち。原田康。恋人たちを祝福する。悲したような恋人たち、原田康。恋人たちを祝福する。悲し し合った)。恋人同士が(いちゃつく。戯れる。睦もっ恋仲の二人。▼恋人同士が(いちゃつく、戯れる。睦もっ恋仲の二人。▼恋人同士(仲睦ばぶまじい。すべてを許い運命が恋人たちをひきさく―大庭。 恋仲に落ちる。 まる。しっくりといかない)。二人の仲を〔疑う。ご破恋に醱酵する。こじれる。進展する。疎遠になる。深り抜く。取り沙汰する〕。二人の仲が〔気まずくなる。 す。垣根が横たわっている=石坂)。二人の関係を(知とり霞ませる。趣味が一致する)。二人の間に(水をさう。二人の(関係が終わる。心が結びつく。愛をうっか指を立てる。人目を忍ぶ仲。二人が激しく求め合い指を立てる。 恋人のように甘やかな悲しいような幸せな気持ち゠をくっつけて寄り添う『野間。しばしの別れを惜しむ 盤。優しく黙り込んで歩く=原田宗)。恋人のように肩み合う)。 恋人同士のように(抱きあってキスする=常 ^。 意中の人。人気役者を色にする。 心に思う

こいわずらい【恋煩い】恋煩いに(かかる。悩む)。恋落ちする。愛人の子を生む。愛人を(囲う。つくる)。 の病に(落ちる。 算にする。 裂く。囃し立てる。認める)。愛人と駆け かかる)。かなわぬ恋に身を焦がす=

陸がさのような慈愛に満ちた表情-筒井。眼差しが慈**じあい【慈愛】**慈愛に(富んだ女性。満ちた笑み)。善玉村。四百四病いがよバの外。 (写。 4.5cm このような慈愛に満ちた表情-筒井。 眼差しが慈愛の眼で娘の方を見やる-岡本。 慈愛のこもったの慈愛の眼で娘の方を見やる-岡本。 慈愛のこもったの意愛のような慈愛に満ちた表情-筒井。 眼差しが慈 、。 眼差し)。 父母の慈愛を一身に集める。

**したう[暮う]▼**暮う【暗なのように。中。生家のなつかしい夢を見て-太宰)。後のように。中。生家のなつかしい夢を見て-太宰)。後ように。姉のように。華やかな社会を。師匠を実の親ように。婚のように。華やかな社会を。師匠を実の親

に捕捉しがたい=高見順)

しつれん【失恋】失恋の(苦しみに悶もだえる。 痛手か (二人の恋が。はかない恋愛が)。恋に破れる。彼に袖める。失恋して(泣き明かす。やけになる)。▼終わるれる‐加賀)。失恋を時効にかける。失恋した友人を慰れる‐加賀)。 にされる。 悲恋に終わる。▼振られる(意中の人に。 男 ら解放される=落合。 痛手の名残がありありと刻印さ

慕を(切々と訴える。胸に抱きしめる)。亡き母を思慕美しさを映す=福永)。故国への思慕に身をこがす。思美しさを映す=福永)。故国への思慕に身をこがす。思しば「思慕」思慕が(頭をもたげる。鏡のように相手の

情に(眩くらんで溺れる。ほだされる)。温かい母親の(一緒に暮らすうちに-熊谷。大も三日飼えば-遠藤)。 じょう【情】石仏みたいに情がない-円地。▼情が移る 男と情を通じる。水も漏らさぬといったような情を情に触れる。情のこわい娘。情を迎えるように言う。

見せる『永井荷』ほのぼのとした情愛がにじみ出る。情報 愛にあふれた眼差し。強制的な情愛がにじみ出る。情報 愛にあふれた眼差し。強制的な情愛がにじみ出る。情報 愛にあふれた眼差し。強制的な情愛がにじみ出る。情報 愛にあふれた眼差し。強制的な情愛の押し売り』遠 愛にあふれた眼差し。強制的な情愛の押し売り』遠 愛にあふれた眼差し。強制的な情愛の押し売り』遠 できずる。ない情事とも呼べないような結びつきで事故のように妊娠する。瀬戸内。情事に(身な変なる。在事を仕込む。欲得ずくで色事をする。色の道楽にはれる。情事の(くさぐさが心に思い浮かぶ。両刀田。疲れなって事故のように妊娠する。瀬戸内)。夫の情事を気にかける。スマートな情事を楽しむ=三浦朱。色事に深入りする。色事を仕込む。欲得ずくで色事をする。色の道を仕込む。後得すくで色事をする。色の道を仕込む。後得する。中ではい果たす。女道楽にはいる。も夢をを対え、進力と、演奏が高力田。を行込む。色養様の道行き。色様を演じる。多年のかれる。音を担いる。海情がされる。ただれる。方な淫欲にふける。毎情がに置いる。ただれる。方な淫欲にふける。毎情がにいる。ただれる。方な淫欲にふける。毎情におぼれる。痴情のもつれによる刃傷沙汰が必によるのもつれによる刃傷沙汰が必による刃傷沙汰が必による刃傷沙汰が必による刃傷沙汰が必による刃傷沙汰が必による刃傷沙汰が必による刃傷沙汰が必による刃傷沙汰が必による

せいき【性器】性器が(勃起する。 剝むき出しになる。 性器を口でくわえる。太腿���を開いて性器を露わにれる。バイブレーターを性器に挿し込む=平野。男の吸いつくように組み合わさる=松浦)。性器に指を触吸いつくように組み合わさる=松浦)。性器に指を触 た花野菜のような亀頭=佐藤春。きんたまが膨れる。き 濃密に茂る)。 おちんちんがぴくぴく動く。 腐れかけ としごく。陰部を露出する。陰毛が(繁った股の間。天井を向いてそそり立つ=熊谷)。陰茎をせっせする。天井を向いてそそり立つ=熊谷)。陰茎をせっせー物を開陳に及ぶ=西木。陰茎が(小さくしぼむ。怒張 縮み上がる)。一物を(覆い隠す。突き出す)。自慢のする=熊谷。一物が(股間にぶら下がる。寒さのために いほどの下腹のジャングルを見つめる-大藪。 男根がいる。 隆々たる突起物がそそり立つ=井上ひ)。 猛々し んたまを握る。 股間に(陰毛が見える。 一物が揺れて 一物を(覆い隠す。突き出す)。

月の交情を楽しむ・舟橋。男女の交接。合意の上の情を)。愛の(営み。儀式)。彼女とエッチする。夫婦蜜を)。愛の(営み。儀式)。彼女とエッチする。夫婦蜜を一つにする。性的な行為に及ぶ。情を契り合う。娘を一つにする。性的な行為に及ぶ。情を契り合う。娘 交。情交がこまやかになる。性行為に燃える。むや

せいてき【性的】性的な(遊びにふける。欲望が渦を巻肉体関係を(結ぶ。持つ)。男と女の肉のつながり-火坂。 アピールを放つ。内感が醸し出す雰囲気。性的な関係しい記憶。 飢えた男の衝動=高橋三)。強烈なセックスしい記憶。 飢えた男の衝動=高橋三)。強烈なセックスくり。 性的に乱脈な生活を送る。 性に(まつわる忌まわ する(男女が。夫婦が)。肉体関係にまで及んだ恋愛。を営む。妻以外の女との同衾を潔しとしない。▼同衾する。見境もなくセックスをしまくる-島田。同衾キンウする。見境もなくセックスをしまくる-島田。同衾キンウ 夜伽キヒーに出る。性交を終える。媾後ニビラのようにぐ臥床ムルーを。ベッドを)。房事に(ふける。満足する)。 ったり疲れる=木山。交接を終わる。セックスに没頭 に性行為をしたがる。▼共にする(床を。寝間を。閨を。

を(楽しむ。超越する)。性的欲求を満足させる。房帷を(楽しむ。超越する)。性的欲求を満足させる。房帷で(楽しむ。超越する)。性的欲求を満足させる。房帷で(楽しむ。超越する)。神的欲求を満足させる。房帷で(楽しむ。超越する)。神的欲求を満足させる。房帷で(楽しむ。超越する)。神的欲求を満足させる。房帷で(楽しむ、超越する)。神的欲求を満足させる。房帷で(楽しむ、地域では、中村美、物ぐるおし、肉欲がもりあがってなる。 いた紙のように愛憎とも性欲とも隔絶して見える。の性感が渦巻いている。武田泰。枯れかけた樹木か乾むいよく【性欲】ムウッと息がつまりそうなほど男せいよく ちょうあい [龍愛] 龍愛がひとしお深くなる。▼龍愛艶は\*\*かしい姿態=熊谷。肉欲的な幻想に誘いこむ。 =富岡)。 鳴らして集まってくる男たち=有島)。 肉欲をそそるまされる)。 肉欲の(餓鬼と成り果てる=江戸川。 牙を 三浦し。性欲の(はけ口を求める。自然を恋と錯覚するいた紙のように愛憎とも性欲とも隔絶して見える= 性の幻影の前にもだえる-真継。肉欲に(おぼれる。悩 性欲を顔と態度であからさまに示す=加賀。 娘を。目の中へ入れても痛くないほど=舟

> 龍遇を一身に集める。龍幸5分っを身一つに集める。雨のように降り注ぐ1鬼平)。帝3分の龍愛を受ける。雨のように降り注ぐ1鬼平)。帝3分の龍愛を受ける。 \*をほしいままにする。君侯の寵を得る。将軍の

を合ってつるんで歩く=二葉亭。猫が雌を呼ぶようなとう**うせいあい[同性愛]**見るからに男色趣味の男たち。男色に寛容な社会。レズの悦はっびを教える。ち。男色に寛容な社会。レズの悦はっびを教える。 特情期の犬のように妙に上ずった声=阿久。発情期を迎える。さかりのついた(犬みたいに往来中を手を引迎える。 酸様の寵を争う。 あさましさ=

ひとこいしい 【人恋しい】 人恋しい気持ちがきざす。 退屈で人恋しい思いが湧き上がってくる=原田宗。人 恋しさが募る。人懐かしい(思い。心持ち。気分をそそられる)。 どことなく人懐かしい雰囲気が漂う部屋。 にっこりと人なつかしげな笑いをうかべる=池波。 ひとめぼれ【一目惚れ】 いわばぐさりと胸を突き刺 されるような感じの一目惚れ=南条。年がいもなく一 されるような感じの一目惚れ-南条。 菊池)。 (妻を。女房を)。▼寝取る(他人の女房を。人の亭主通が込の現場を押さえる。姦趙を犯す。▼寝取られる倫の恋に(悩む。走る。ふける)。人目を忍ぶ関係。姦倫の恋に(悩む。走る。ふける)。人目を忍ぶ関係。姦 妻の)。 男と密通する。 を)。道ならぬ(恋に落ちる。しかし懸命な必死の恋= してい っぺんに惚れてしまう。田辺。一目で恋をする。 人の道に背く関係。▼密通が発覚する(夫の

の娘に。今さら退でけないほど)。 惚れると見境がなほれる【惚れる】▼惚れる(ぞっこん。やくざ者が堅気 る上にもまた更に惚れ直す。べた惚れに惚れる。▼ベ卓抜な発想に。美声に。美貌に。勇猛ぶりに)。惚れい。惚れた(腫れたの慕情。弱み)。▼惚れこむ(才能に

愛する・可愛がる-2

藤本。突然身内を吹きすぎる欲情に立ちつくす=山田藤本。突然身内を吹きすぎる欲情に立ちつくす=山田 藤本。突然身内を吹きすぎる欲情に立ちつくす=山田 藤本。突然身内を吹きする。獣に化身する。妄聞をきっぱりと制する=頼田宗。しもが濡れてくる。情炎が燃える。 たっる-原田宗。しもが濡れてくる。情炎が燃える。 応する-原田宗。しもが濡れてくる。情炎が燃える。 応する-原田宗。しもが濡れてくる。情炎が燃える。 たっぱん (横迩葉)▼横窓票する(他人の恋人に。 雇い主である男の妻に)。家来の愛妄はいしに手を出すっぱん。 (世人の婚約者を好きになる。邪恋を(しかけっ) 日橋・他人の婚約者を好きになる。邪恋を(しかけっ) 日本の情報・他人の婚約者を好きになる。邪恋を(しかけっ) 日本の情報・他人の婚約者を好きになる。邪恋を(しかけっ) 日本の情報・一般にないます。 よくじょう【欲情】欲情が激しく燃え上がる。体の奥た惚れする(男に。女に。監督が役者に)。 から欲情が突き上げてくる。欲情に狂った淫らな声=

る。 清算する)。

を結ぶ。男女の仲になる。

ラブレター 書き送る。 送る。恋文を(もらう。やりとりする)。熱烈なる。読む)。艶書の代筆を生業がりとする-隆。 ラブレターを(書く。したためる。代筆す 熱烈な恋文を 艶書を

**れんあい【恋愛】▼**恋愛(神に挑戦するような意気込 情を抱く。 身を焼き滅ぼすような想い=辻井。 男女の 存在する=村山。ロマンチックな恋愛をする。恋愛感 出来の悪いマッチを擦るようなものだ、 深まっていく)。ふところの淋しい恋愛というものはの=石川)。恋愛が(佳境に入る。実を結ぶ。一歩一歩みではじめた=中村真。燃えて燃えて燃えつきるほど っても燃え出すことがない=庄野。恋愛の形は無限に いつまでた

**ロマンス** ▼ロマンス(空想豊かな。華々しい)。過去が き上げる。

あいたい【会いたい】▼会いたい(無性に。死ぬ前に一 責任者にお目にかかりたい まらない。二度と会いたくない。矢も盾もたまらず会る=真綵。早く会いたいの一心。無性に会いたくてたたい思いが募る。一目会いたい願いに駆りたてられた。もう一度。わけもなく。いっときも早く)。会い 目。ぜひとも いたくなる=高樹。 たまらなく。何が何でも。 一度お目にかかって挨拶したい。 一目なりと

したな人間で、成様を正して、折に触れて、はつたり 同介な人間で、成様を正して、折に触れて、はつたり 短かな人間で、成様を正して、折に触れて、はつたり 短かな人間で、成様を正して、折に触れて、はつたり と、二人だけでゆっくり。闇の夜に紛れて)。会う と、二人だけでゆっくり。闇の夜に紛れて)。会う (折がない。機会をなくす。日を約束する。機会が永 人に失われる。手管だはになっている)。しばしば会う 機会を持つ。何かと会う機会が多くなる。人に会う約 東がある。▼逢う(恋人と忍んで。誰かしら見知った顔 に=島崎)。会うに(値する相手。ふさわしい場所が思 い浮かばない)。▼ばったり会う(友達に。昔の仲間 と)。そのに行く(たびたび、毎日)。との面下げて会 いに来たんだ。▼会わせる顔がない。思いかけず会える できる日を待ち焦がれる。一目でも会わけできる いに来たんだ。その世間とり。そのでによるし げしげ。たびたび。人目を忍んで)。との面下げて会 いに来たんだ。▼会わせる顔がない。思いかけず会える。 会える日を待ち焦がれる。一目でも会わけでも いる日でよくないとない。 あう【会う】▼会う(地獄で仏に。死に目に。十 人と)。初顔合わせの(会議。共演。対戦)。▼まみえる 合わせ。▼接見する(首相が外国大使と。弁護士が被告 い。内密に会見する。会見を申し込む。月に一回の顔 生の浮沈に。同姓の人に。久しぶりに。本人に。 敵に)。▼相まみえる(勝利の日に。

あわない【会わない】▼会わない(しばらく。 ぞ)。▼会えない(親の死に目に。めったに。一生。こかかっていない。▼出会ったことがない。秋らくお目にし。一度もお目にかかったことがない。長らくお目に未来永劫以いこの世で会うことはあるまい=なかに にかかれない(絶対。なかなか。ずいぶんと長いこと)。 一度と。 年に一回しか。 一足違いで)。▼お目 久しく)。▼会っていない(長い間。ただの一度すら)。 いる=三好徴 面会謝絶の重体。病室に面会謝絶の札がかけられて 誰にも。

インタビュー る。 試験で。入試で)。面接を数多くこなす。 る(有名人を。タレントに。街頭で)。▼面接する(就職ンタビューを(受ける。申し込む)。▼インタビューす 面談を(申し入れる。申し込む)。 インタビューに(応じる。答える)。 面談に応じ

とがない。入れかわり立ちかわり訪れる弔問客内田たび平和がおとずれる『白洲。絶えて久しく訪れるこ が=吉本。決定的な瞬間が偶然に=中村真)。世上にふたうな眠りが=長野。 テレパシーのようにすぐ深い理解 ふらりと。歓楽が極まって悲哀が--高橋和。沈みこむよ で。包み金を持って。休みを利用して。予告もなしに

おめどおり【お目通り】お目通りが叶う。催促に。ご挨拶に。相談に。報告に)。 ▼足を運ぶ(劇場に。スタジアムに。頻繁に。せっせ連日のように)。足しげく参内する。参内をためらう。 (実家に。たまに。病室に。しょっちゅう。ときどき。 降りる-坂口。春の訪れを告げる。朝夕に秋の訪れを(遅い。早い)。恋人の訪れのごとくイソイソと階段をじけないほどに滑らかな眠りの訪れ-小川。訪れが・財機が訪れる(願ってもない。待ちに待った)。あ 東。▼好機が訪れる(願ってもない。待ちに待った)。あ と。何度か)。▼伺う(お見舞いに。お詫びに。原稿の 分。お忙しいところを)。お邪魔に上がる。▼顔を出す 願いに。お詫びに)。▼お邪魔する(お宅に。突然。夜思わせるような冷気がしのび込む−藤沢。▼あがる(お

8

に。天皇陛下に)。拝謁の栄を賜わる。拝顔の栄に浴見を許される。王が家臣を引見する。▼謁見する(国王お目通りを許される。お目見得を許される。将軍に謁

おめにかかる[お目にかかる]▼おし、 で。もう一度)。お目にかかる日を楽しみにする。お 目にかかれて光栄です。こんな幻想的な光景にまさ で。もう一度)。お目にかかる日を楽しみにする。お で。折にふれて。ちょいちょい。ちらっと。久しぶり に。折にふれて。ちょいちょい。ちらっと。久しぶり

離れ離れだった母子が。懐かしい友人に)。再び(お目 を約束して別れる。人しぶりの再会を喜ぶ。▼再会す る(旧友に。十年ぶりに。思いがけなく。旧知と偶然。 再会の(涙にかきくれる。日を楽しみにする)。 感動的な再会の場面。今生での再会は望めない。再会 を削ない。千年ぶりに。思いがけなく。旧知と偶然。 を記述して別れる。人しぶりの再会を喜ぶ。▼再会す をにったがりで、思いがけなく。日知と偶然。 挨拶を(交わす。述べる)。 久闊を(叙する。詫びる)。汰を詫びる。久闊ががっの友に訪われた喜び。久闊ががらの友に訪われた喜び。久闊のばがさた【御無沙汰】御無沙汰を重ねる。長年の無沙

を。古老たちを。戦跡を。ゆかりの土地を。集落内の たずねあるく「訪ね歩く」▼訪ね歩く(記憶の空間 にかかる。会うこともあるまい)。 

を)。 訪う声が聞こえる。

き当たる。ぶつかる。いきなり肩をつかまれる。人をであいがしら【出合い頭】出合い頭に(衝突する。突途中に立ち寄る(航海の。旅行の)。船が寄港する。 たちよる<br />
【立ち寄る】<br />
▼立ち寄る(帰りがけに。 通り 舞いかたがた。通りすがりに懐かしい家に・連城。▼りと。郷里の家に久しぶりに。勤めの行き帰りに。見がかりに。孫の顔を見に。日に一度。ぶらっと。ふらがかりに。孫の顔を見に。日に一度。ぶらっと。ふら

であう【出会う】▼出会う(意外な人物に。 動たに。昔の同級生に。面倒な相手に。ばったり道で。 かた。間然に。素敵な女性に。久しぶりに。亡父の仇抗に。偶然に。素敵な女性に。久しぶりに。亡父の仇抗に。偶然に。 さんばかりの頓狂声=永井荷)。どやしつける。勢いよくドアが開く=城山。 腰を抜か

最初の出会いを思い出す。しみじみとした口調で出会いを述懐する。鈴木光。偶然会う。運命的な出会いとんだところに)。旧知との奇遇を喜ぶ。▼めぐり合いとんだところに)。旧知との奇遇を喜ぶ。▼めぐり合いとんだところに)。旧知との奇遇を喜ぶ。▼めぐり合いとんだところに)。旧知との奇遇を喜ぶ。▼めぐり合いた顔に。隠れた名作に。高僧の謦咳がいに。父の訃に、異なった生活に、悪いニュースに、期せずして各に、異なった生活に、悪いニュースに、期せずして各に、異なった生活に、悪いニュースに、期せずして各に、異なった生活に、悪いに、明せずして各に、異なった生活に、悪いに、明せずして各に、異なった生活に、悪いに、明せずして各に、異なった生活に、悪いに、明せずして名 ### - 世子)、出会いから結婚に至るいきさつ。意外な出会 ようなドラマチックな-森村。一生を左右するような ようなドラマチックな-森村。一生を左右するような ようなドラマチックな-森村。一生を左右するような の中の はいがけなく。ばったりと街角で)。▼出会い(偶然の。 のは、むき出しの反感に。もう一人の自分に。突然に Ø, 地の花信に=阿川弘)。▼報に接する(遺体発見の。 逝去の)。 男と女の出逢いは神秘的な偶然=瀬戸内。

(ちょくちょく。勇を鼓して)。デートの約束をすっぽデート デートがおじゃんになる。▼デートに誘う の逢瀬を心待ちする。鈴木光。密会にうつつを抜かす。次の逢瀬を約束する。濃密な逢瀬を交わす。週に一度次の逢瀬を約束する。濃密な逢瀬を交わす。週に一度出かける。逢い引きの(誘いを断る。手立てを決める)。 み撮りする。 女との密会に忘我の時を持つ=船山。 密会の現場を盗 トする場所を選ぶ。密度の濃い逢い引き。逢い引きに デートする(恋人と。週末にガールフレンドと)。デー かす。デートを申し込む。何度かデートを重ねる。▼

った顔に。だしぬけに。つらい場面に。物凄もいいでくわす【出くわす】▼出くわす(奇妙な事件に。 に)。▼逢着セヒヴーする(新しい事態に。 奇妙な現象に。家の艱難がんに。重大な結果に。生死にかかわる危難とんでもない事態に)。▼遭遇する(大きな地震に。国に。ばったり人と。町で偶然)。▼際会する(困難に。 で偶然)。▼ 祭水さ- ~ ~ で偶然)。▼ 祭水さ- ~ ~ で の 歩きる い 嵐

> ほうもん【訪問】訪問が(頻繁になる。間遠になる)。(旧友と。偶然。街角で恋敵と)。 る。危うく鉢合わせをするところ。▼鉢合わせする 困難に。難関に。難局に)。ばったりと鉢合わせにな

一度も訪問したことがない。不意の訪問者に胸がとに。セールスマンを装って)。一軒一軒訪問して歩く。的な立場で。散歩かたがた。ぶらりと。各家庭を戸別的な立場で。散歩かたがた。ぶらりと。各家庭を戸別ける。突然の訪問を詫びる。▼訪問する(非公式に。公 訪問の(意図を察知する。目的をいぶかる)。訪問を受

遊ぶか、(劇的な。偶然の)。運命の邂逅を遂げる。思さい、(劇的な。偶然の)。運命の邂逅を遂げる。思さい、衛くしくも十年ぶりに。好ましい相手に。千載一で。奇くしくも十年ぶりに。好ましい相手に。千載一遇の機会に=山岡。棚からぼた餅の大幸運に=山岡。▼ といいな性に。 いがけない人に邂逅する。

面会に来る。面会を(申し入れる。申し込む)。校長にめんかい【面会】面会に(行く。応じる)。日曜日ごとに りを(願う。 許す) 面会を求める。たびたび面会する。 刺を通じる。 日通

学校の)。帰り道に立ち寄る。帰宅の途中に立ち寄る。 友達の家に寄り道する。▼帰りに寄り道する(会社の。 大達の家に寄り道する。▼帰りに寄り道する(会社の。 暮れるほどの自由が包み込む=原田宗。 遠に道草を食うことが許された子供のように途方に う(途中で。 誰はばかることなく思う存分= 学校が終わったら寄り道しないで帰る。▼道草を食

らいほう【来訪】 弔問客の来訪が一段落する。▼来訪

9

千代紙のように細い矩形いっで冴えている=檀。夕日 が次第に低くなり水の色が段々納戸色になる=田山。 が次第に低くなり水の色が段々納戸色になる=田山。 が次第に低くなり水の色が段々納戸色になる=田山。 が次第に低くなり水の色が段々納戸色になる=田山。 が次第に低くなり水の色が段々納戸色になる=田山。 が次第に低くなり水の色が段々納戸色になる=田山。 のまったくの書に満ちている=村上巻。早市に溶ける でがうるんだ。光が空の。空がインクの青色に染まる。 でごうるんだ。光が空の。空がインクの青色に染まる。 た空堀。 大江。灰青色におぼめく朝の最初の光=三島。青磁色げると気の遠くなるほど高く淡青の冬の空がある=空が涙ぐましいあざやかな淡青に晴れる-大江。見上の-森瑞。鈍い青色をしている空森鴫。淡青色の照明。 藍色に聳をびえる山々の線-横光。藍青色に晴れきっ潮-島崎)。稲穂の実り豊かに垂れている田の彼方に濃 が地面の陰日向を銀と藍とでくっきりと彩る=有島。洗い立ての藍がすがすがしい。雲間を漏れる日の光 ころでだけ物凄だいく藍色に光っている。宮本百。空のいいろ【藍色】黒い嵐雲の捲\*\*き立つ空が山際のと の空が広がる。 藍を(溶かしたような海の色。流したような濃い色の た彼方の海。 が不透明な藍色にとどまっている-鷺沢。 藍色を深め 狭い路地の果てに海が切り取られた藍青の 海は黒と見まがうほどの濃い藍辻井。

あおあお【青青】青々と(濃い剃刀みゅりのあと=川端 雑草が生い茂る。麦が風に揺れる。 若葉が萌え出す)。 山。青々とした(美しい山肌。芝生。髭ひげの剃り跡。の前に青々と広がる海。草木が青々と芽を出す=田 『潔な色をした畳=原田康)。 空が青々と晴れ渡る。 目 い【青い】青い(湿っぽい香り。月が照らす。

まいと云・いたいくらいに深く青い空の色で大橋。こめかみに青い疳筋がいを走らせる。同田。静脈が青いた青い肥・伊藤繁。ビー玉のような青い眼・阿部・ は冷たい憎しみの青い生気が燃える。本庄。目に青いたったい性しみの青い生気が燃える。本庄。目に青いたったが燃える。神面な顔。凍ったような光が点としている。青く(着色する。細面な顔。凍ったような光が動える。本住。目に青い酸のように)。始終青い顔をしている。青く(着色する。細面な顔。凍ったような光・山野)。入り江が青く澄む。海がいやがうえにも青く輝く。恨みを青く放つ目。顔が青くこわばる。かなたの山が青くかすんで見える。草の芽が青く中びる。月光が青く散る。下草が青く萌える。静脈が青く浮き出る。空はあくまでも青く前える。静脈が青く浮き出る。空はあくまでも青く東まって海底のよう。有きしていまります。 を散らす。夜の色。煙がすっとのぼる。ぬるぬるした 社っ瀬戸物のような光子石森。▼青い(剃り痕が鮮や かに。空の色が心持ちよく冷たく。顔が木々の葉の反 射を受けて染めたように=光瀬。空が染みつくように 事子。空が気が遠くなるほど=島尾)。紫陽花\*50で色 があざやかに蒼\*5\*い、泉鏡。初夏の青い風が吹く。空 があざやかに蒼\*5\*い、泉鏡。初夏の青い風が吹く。空 があざやかに蒼\*5\*い、泉鏡。初夏の青い風が吹く。空 があざやかに蒼\*5\*い、泉鏡。初夏の青い風が吹く。空 があざやかに蒼\*5\*い、泉鏡。初夏の青い風が吹く。空 があざやかに蒼\*5\*い、泉鏡。初夏の青い風が吹く。空 があざやかに蒼\*5\*い、泉鏡。初夏の青い風が吹く。空 があざやかに蒼\*5\*い、泉鏡。初夏の青い風が吹く。空 があざやかに蒼\*5\*い、泉鏡。初夏の青い風が吹く。空 があざやかに着き。大池の水が桔梗。450の青い色。 える=大佛。 藤本。青っぽい明かり。若葉の青っぽい匂いが体にし 水のように体を青く染める=村上春。雪の色が仄ほのされた川底の石が青く光っている=三浦し。闇が夜の 泉鏡。黴臭クがい家の中で人々が青い息をする=有吉。 気=森瑶。白く張った皮膚の下に静脈が碧く透いて見 かに青く煙る=芥川。 宵の口特有の蒼く冷えた甘い空 に冷たそうに青く光る=原田康。 水は透明で日に照ら 空が抜けるように碧く吸い込まれそう。

> る。蒼茫とした膨大な街並み・森村。海が瑠璃色いの原。蒼茫と薄暗い水の広がり。窓外が蒼茫と暮れかか原。蒼茫と薄暗い水の広がり。窓外が蒼茫と暮れかかなこんでくる。あさの。地面が雪明かりでぼうっと浅みこんでくる。あさの。地面が雪明かりでぼうっと浅 の海に目を凝らす=村山 にうねる。瑠璃色にうるんだ夏の夜空=円地。 瑠璃色

> > 10

あおさ【青さ】▼青さ(海の透き通るような=泉優。空が 青さを映して美しい。 空が抜けるような青さに澄み切る=柴田翔。 川が空の 海と空に初夏のみずみずしい青さが返ってくる=畑。うな空の青さが目に染み入る=外村。日の出とともに ぶしい。空の青さが目にしみる。薄衣を纏まとったよ もしたら染まるような空の蒼さ=塩野。海の青さがま つひとつ数えられるほど目近い=石森)。 なにもかもす いこんでしまうような一灰谷。星がひと 指を入れで

にらまれたように-若竹。顔が死人のように-浅田。顔が気きとおるように-藤沢)。▼顔が青ざめる(意外な事実に。見る見る)。▼蒼\*\*\*ざめる(病人のように。顔が気味悪いくらいに-堀)。顔色が壁のように蒼褪\*がっなしか青ざめている。顔もが壁のように着褪\*がっなしか青ざめている。顔もが壁のように着褪\*がっなしか青ざめている。顔もできずらで地で、かいなしか青ざめている。顔もできずらでもでいる。前色で消す。前色になる。デスマスクのように変わる-黒岩。のず、音色になる。デスマスクのように変わる-黒岩。 る。驚愕がは、何色を失する。顔色が青く血の気がない。で見上げる=大原。血の気のない顔を一層着くする=で見上げる=大原。血の気のない顔を一層着くする=で見上げる=大原。血の気のない顔を一層着くする=で見上げる=大原。血の気のない顔を一層着くする=半年間の断食を終えたドラキュラ伯爵みたいな形相半年間の断食を終えたドラキュラ伯爵みたいな形相半年間の断食を終えたドラキュラ伯爵みたいな形相半年間の断食を終えたドラキュラ伯爵みたいな形相半年間の断食を終えたドラキュラ伯爵みたいな形相 あおざめる【青ざめる】▼青ざめる(顔が羊皮紙さな にらまれたように=若竹。顔が死人のように=浅田。顔がらに=宇野利。悪魔に追われたように=川端。悪魔に

口门 感じる。顔が血の気を失う。血の気を失くして一本のおられるのような顔=黒岩。全身から血の気が引くのを血の気のない青い顔。血の気のないない青い顔。血の気のなくなった蠟人形 ソクのように佇がたむー高橋三。 顔がみるみるう

あおじろい【青白い】青白い「蒲柳はやな体。薄明の色。 あおじろい【青白い】青白い「蒲柳はやな体。薄明の色。 が浮かぶ。 頬が赤く染まる)。▼青白い(顔色が病的な ほど。 肌が魚の腹のように=藤沢。 繭をつくり始める 前の蚕のように顔も手も皮膚が透きとおるように= 日野)。 月の青白い光。 蛍光灯の青白い光に照らされ る。パーナーが上げる青白い灸。 けぶったような青白 い夜明けの光が室の中にはいってくる―小林多。 幻影 が青白い炎になる=畑。 全身を青白い気迫の炎が覆う ・ニ浦し。▼青白い顔(貧血気味の。今にも死にそうな。 ・ニ浦し。▼青白い顔(貧血気味の。今にも死にそうな。 ですかしと懶惰だったに触むしまれた。 春垣。 。 青白くガ ですかしと 懶惰だったに触むしまれた。 春垣。 。 青白くガ 穴の中にでもいるように青空が高く遠く見える−石 かな玻璃は□のような=加賀。冬のつんと澄んだ=吉 かな玻璃は□のような=加賀。冬のつんと澄んだ=吉 れた蒼空減は■本田。青空がくっきりと見える。秋晴 れた蒼空減は■本田。青空がくっきりと見える。秋晴 れた蒼空減は■国木田。青空がくっきりと見える。秋晴 れた青空減は■国木田。青空がくっきりと見える。秋晴 れの青空が目にしみる。底抜けの青空が広がる好天。 がちまけたような明るい=海音寺。澄みきってなめら ぶちまけたような明るい=海音寺。澄みきってなめら ぶちまけたような明るい=海音寺。澄みきってなめら 青光りしている。夜光虫が青光りする海、顔から血の 明かりに青白く浮かんでいる。伊集院。星がちかちか 明かりに青白く燃える-遠藤。くちなしの花が七月の月 ーブが青白く燃える-遠藤。くちなしの花が七月の月 の大が照らす。頬が青白く遠ぎ通る。夜光虫が青白く あおぞら【青空】▼青空(雲一つない。颱風ホネシの去っ 田。切り取って体にまといたいような一阿久。銀粉を 暮らしに疲れたような膚はだに土色の沈んだ女士人。 たあとの澄明な=三島。宇宙へ突き抜けるような=飯 気がひいて土気色に変わる=小林久。土気色の顔。外国

、 ような"高橋三)。青空ががなる。明旦に、オの流れる。明旦に、まうな"高橋三)。青空から日射しが降り注べ。青空に(浮いた白い雲。快音が響く。筋雲が流れる)。遠い青空を無なる。目に青空の色がまぶしい。白い雲が青空を無なでるように流れている。丹羽。▼青い空、冷たく使い。東りつきそうな"小川。故"ま。しいくらいきれいな"武田百。むっちりとうるんだような亜熱帯アジアの"開高)。見事なまでに青い空がひろがる"高橋。星に埋まった蒼穹がら。雲一つない蒼穹が目の前に広がる。黄井。暗碧冷ら。雲一つない蒼穹が目の前に広がる。黄井。暗碧冷きの蒼穹の一角から流星が飛ぶ-高橋和。カな(帯びた星。ほんのりと映す)。夕闇が青みを残している。畑が刷毛の先でかすったように麦や小麦でている。畑が刷毛の先でかすったように麦や小麦でている。畑が刷毛の先でかすったように麦や小麦ででいる。畑が刷毛の先でかすったように麦や小麦であた。青みを借びた空本在庄。▼青みを帯びる(池の水が。空が。 ように)。▼青空が広がる(頭上に。水の流れを映したえる=三浦綫。▼青空がのぞく(木立の間から。染めた坂。薄雲に覆われた青空が紗し。を透かしたように見坂。

あおみがかる【青みがかる】青みがかった「黎明の空。灰色のワンピース。夜の始まりの空気・大江」。ほぞ。灰色のワンピース。夜の始まりの空気・大江」。ほ森。夜明けに近い青すみ始めた空。かすかに青みはじめた草原・山本周。▼青む(草原が。柳が)。瞼は、へ濃いまつげの影が葉の影や草の影のように青んでひるがまつげの影が葉の影や草の影のように青んでひるがまっぱい。 が舐めるように紙の上を這よう=黒井)。空が簇もらうすあおい【薄青い】薄青い(煙。 闇。夕暮れ。焰揺の るー

つ白な雪が紺青の山肌にきわやか=三浦綾。夕空の紺海原。隈<\*\*なく晴れ上がった紺青の冬の空長与。真海原。隈<\*\*なく晴れ上がった紺青の冬の空長与。 雑青のが広がる。紺青に込じに底光りする海の上に朝日があが広がる。紺青に込じに底光りする海の上に朝日があが広がる。紺青に込じに底光りする海の上に朝日があか上ので 澄み渡る。 紺碧の(空に白い雲が浮かぶ。 潮が後から 青を仰ぐ。紺碧に払に晴れ渡った空。空が高く紺碧にっ白な雪が紺青の山肌にきわやか=三浦綾。夕空の紺海原。隈〈\*\*なく晴れ上がった紺青の冬の空下長与。真

後から湧くように躍る-菊池)。手の染まるような組後から湧くように躍る-菊池)。手の染まるような組得の海-宮尾。春の紺碧を斑はだにしている白い雲-吉川。濃紺の(海。サファイア。シャツ)。群青色の(秋の空。湖水)。海が群青に風ないでいる。緑色の縞し\*が幾重にも走った濃い群青の水面-福永。
「顔に覚悟の瞳を輝かす-菊池」。蒼白な頬に(赤みが射す。バラ色の血がよみがえる-山間)▼蒼白になる(顔色が。頬が。放心したような表情のまま-筒井)。顔面着白となりわなわなとふる。出国。▼蒼白になる(顔色が、頬が。放心したような表情のまま-筒井)。顔面着白となりわなわなとふる。出国。マガロなる-柴田鉄。マって塘地でのように全身を頭よっわせる-柴田鉄。

一大佛。インクの壺っぱをこぼしたような混じり気のこんいろ【紺色】沖へ行くほど紺色の深くなる海の青のの仄蒼緑粉い光--福水。朝霧がほの青く残っている。 中の仄蒼緑粉い光--福水。朝霧がほの青く残っている。 かった花の間に薄青い色をなごませる--芥川。遠浅のがった花の間に薄青い色をなごませる--芥川。遠浅の まつさお【直づ青】湖がまっ平らで空の色を映してい ブルー (閃光)は3、目に沁みる海。つるつるした空を見上げるんできたのではないかと思ったほど=木山。真っ青なるように真っ青=長崎。顔面が真っ青で幽霊が飛び込 のブレザーコー 大庭。色鮮やかなトルコブルー=阿木。ネイビーブルー 信。 目も醒 \*\*めるように鮮やかなトルコ石色の帽子= 線に近いところがサファイアブルーに変わる=小林かにコバルトブルーの川が蛇行する=加賀。海の水平 ルトブルーに染まる。黄金色に光るキタヨシ原のな 明がブルーに変わる。サファイアが濃いブルーに輝く海の濃いブルーとこよない対照をなす。北。店内の照 でくる=藤本。飛沫記ぶの目に沁みる純白が眩ほば ||大藪。 うす 目に浸み込むような空のブルーが飛び込ん いコバルト色に晴れた空=石坂。海がコ **ト**。鮮やかなマリンブルーのプール。

11